

地域と大学

第34号

Newsletter No.34, Division of Regional Collaboration and Lifelong Learning

地域から見た学生の地域貢献

イノベーション社会連携推進機構・地域連携生涯学習部門特任准教授

皆田 潔

昨年5月、静岡大学社会連携推進機構に着任するまでの私は、中国地方の中山間地域の地域づくり支援にNPOのスタッフや行政職員として携わってきました。「過疎」や「地域づくり」という用語の発端は、中国地方の事例から生まれた言葉ということあまり知られていませんが、過疎の最前線が私のしごと場でした。地域産業、観光振興、交通基盤の維持、子育て、高齢者の福祉サービス、環境保全など多岐に渡りましたが、大学と地域を結ぶ役割も大事な仕事のひとつでした。この10年の間に大学と地域の関わりは随分変わったと感じます。以前は主に自治体が地元で抱える課題の解決を目的として大学に依頼したり、ゼミを単位として学生が地域と関わりを持つものが殆どでした。ところが、平成24年に一転します。文科省の中央教育審議会において、「アクティブラーニング（能動的学習）」という言葉が使われ、「一方的な講義形式による教育から発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習により、生涯学び続ける力を修得する。」と新たな学修の手段が提示されると、それが一転し、複数の大学から学びの場を提供して欲しいという要望が多く寄せられるようになりました。

農山村のコミュニティは外の人の交わりが殆どなく、固定化した人間関係が地域づくりの妨げのひとつになることが指摘されてきましたが、この潮流は、我々地域づくりを担う者にとって、「ピンチをチャンスにかえることができる絶好の機会」と期待したのを覚えています。学生を受入れた地域では、地域のことや自分のことをいきいきと話す姿や農作業や山仕事を体験させたり、薪を使ったごはんを食べさせたりと、住民

自らが学生を受入れるプランを考える姿がそこにありました。集落は、自分たちに不足しがちな外部の視点を得られるとして、学生が関わることを好意的に受け止めてくださいました。そして、これまでは自ら（在住者）が便利にそして安心して暮らし続けるための「守りの地域づくり」の活動が中心でしたが、学生との交流を維持しよう、また来てもらおう、というホスピタリティが芽生えていました。この意欲は地域が求める後継者、移住者の誘致につながるものでした。これが地域で立ち会った「守り」から「攻めの地域づくり」に変わった転換点でした。学生は何かをもたらしたわけではありません。そこに通い、継続した関わりを持つことで住民が変わったのです。こうした事例が広まると、学生が興じたという風に伝わり、学生に過度な期待が及びがちですが、地域の努力があって地域づくりは成功し、その努力が魅力となり学生や移住者を惹きつけるのではないのでしょうか。

私は現在、本学地域創造学環のフィールドワークのコーディネーターとして、学生に学びの場を提供する立場にありますが、地域づくり実践者としての気持ちは失うことはありません。これまでの地域づくりの最前線で得た経験をもとに、地域振興にも積極的に関わっていききたいと思います。



航空写真を用いて主体的に集落点検を行う住民

地域課題解決支援プロジェクト

地域課題解決支援プロジェクトは4年目に入り、本年度は第2期公募を行いました。県内各地から15件の応募が寄せられ、準備の整った14課題をリストに掲載しました。すでにフィールドワーク等で学生を受け入

れていただいている地域もあります。興味関心があり、協力いただける学生、教職員、研究室は、学内・他大学を問わずご連絡ください。

第2期 地域課題解決支援プロジェクト応募課題リスト

No.	応募団体/関連団体	現在困っていること（地域課題）について	大学に期待する支援について
1	東伊豆町観光協会（東伊豆町）	東伊豆のジオスポット・細野高原の「すすき祭り」は、町民による活動が実を結び集客が伸び始めた現在、さらなる活動の展開が課題となる。町内へ観光客を誘導するための食品開発・土産物の展開などを通して、細野高原・東伊豆町の価値を高めていきたい。	学生たちには細野高原イベント委員会へ参画という形での支援を期待する。参画することによって、実行委員会や地域住民と交流を図るとともに、地域の実態を学生たちの目線で見え、問題提起・解決方法の提案・提案の実行を実行委員会や当団体とともに作り上げていきたい。
2	静岡市葵生涯学習センター 指定管理者（公財）静岡市文化振興財団	静岡市生涯学習センターは地域住民が豊かな人生を送るための場として活用されているが、学生・勤労者層は利用率が低い。全ての地域住民の生涯学習活動を充実し、地域と密着した活動とするため、事業の企画立案・運営に地域住民自身、特に若年層が参画することが重要である。	①市民協働・若者参画による生涯学習の活性化のため継続的な意識調査において、企画・実施・分析作業を支援して欲しい。 ②若年層に対して、施設や生涯学習の認知を高めるための手法を開発・事業実施をしているが、そのプロセスに参画して欲しい。 ③実習生制度への学生参加を推進してほしい。
3	富士のさとの森づくり実行委員会（御殿場市）	国立中央青少年交流の家には様々な樹木が存在するが、一定の考え方をもちて植栽するべきであるとの意見が寄せられている。すでにランドデザインが一応存在しているが、これをひとつのたたき台にしてコンセプトを固めていくことが必要である。	①学生の意見を反映した森づくりのランドデザインの再構築作業 ②ランドデザイン再構築に必要な森林の伐採等の作業 ③既存の草花の生育等に配慮した環境の専門家の指導、助言（整備時期、整備内容の決定）
4	松崎町	旧依田邸は築300年以上の歴史をもつ建造物で、伊豆半島の発展の原点であり、歴史的・文化的な価値が高いが、修繕・保存という課題に直面している。また町の地域資源として活用し、まちおこしの拠点とする方策を立案・実行することも課題である。	最少の費用で最大の効果のある維持や修繕方法を一緒に考え、歴史ある建造物を利用したまちづくり手法を提案してほしい。教職員・学生を送り出してフィールドワークとして支援していただきたい。
5	松崎町	当町では近隣に大学がなく、せっかく素晴らしい公開講座などがあっても、移動時間を考えると参加をあきらめるしかない。また、大学生との交流に時間とコストがかかるため、いつ何時でも交流が持てる状態にない。	今夏オープンした、シェアオフィス「ふれあいとーふや。」において、静大の公開講座を受講できるように配信を検討していただきたい。大学生との交流にも使っていただきたい。
6	松崎町	松崎町が抱える課題として、人口集中地域から遠いこと、交通手段が整っていないことがあげられる。そうしたハンディキャップを克服して交流を進める方法としてのICTの活用が考えられる。光ファイバー網の整備をしたが、利活用の具体的な方法が見つからずにいる。	防災や観光、福祉をICT技術で地方の不利、不便さを解消できる技術や提案の提供。
7	松崎町	全国で活発に行われているふるさと納税だが、当町では返礼品競争ではないふるさと納税本来の趣旨を踏まえた活性化を検討しているが、思ったように納税額が伸びない。	外部から見た松崎町の魅力を探り、そのうえでどのような返礼品やどうしたら納税満足度があがるかを一緒に研究してほしい。
8	松崎町	町内に大学の施設や研究室などがいないため、産官学の連携した取り組みができない。 また、仕事が少ないため若い人が出ていく。	新しい働き方や隙間産業などを学生と一緒に考案していただきたい。 例：耕作放棄地や放棄果樹園を集約し、都市部の週末農業体験のニーズへ繋げるなど
9	茶夢来（菊川市）	環境整備や農業を核とした新たなライフスタイルを実現する地域づくりが必要となっており、食と農の拠点創造、食育の場づくりを目指している。地域住民の意識調査やニーズ調査をベースに、地域住民が一体となった取り組みを行ってほしい。	農業を核とした食育、地域食材を活用した商品開発、レシピ開発、ノルディックウォーキングを活用した地域健康づくりと観光開発など地域が一体となった街づくりを目指したい。菊川ブランドのストーリー性の創造に大学の支援を頂きたい。

No.	応募団体/関連団体	現在困っていること(地域課題)について	大学に期待する支援について
10	NPO法人富士川っ子の会(富士市)	地域全体に「かわっこカフェ」の存在を周知し、自由に集える居場所であることを認知させる手立てを見出すことが課題である。参加者にはかわっこカフェの存在意義が理解されつつあるが、地域住民が「一度は行ってみようと思わせる仕組みの工夫」が必要である。	遊び塾とかわっこカフェの活動を通して、次の点を明確にしたアドバイス 1. 地域に求められている居場所とはどんなものか。 2. それはどのように形作られるべきか。 3. 地域での連携で欠かせないものは何か
11	NPO法人富士川っ子の会(富士市)	富士市の高齢化率は全国平均程度だが、要介護者数が多くと深刻な問題となっている。解決法として、高齢者が後期高齢者の介護を担当するようにして、循環型の介護要員を確保するという構想のもとで活動を進めている。	課題に対応する団体設立の可能性と実現のために必要なことのアドバイスをいただきたい。 1. 介護者と要介護者の区分方法 2. 適正報酬額の算出 3. 団体の設立及びあるべき介護支援形態
12	自立快活プログラム実施 自立援助ルーム 訪問レストランf(浜松市北区)	障害に対しての理解と認知が低すぎ、また障害者である事をカミングアウト出来ない社会性が問題である。自立して一人暮らしする障害者も増えてきたが、結果的に介助者の手を借りるため、介助者本位のサービスを受けている。本来的な意味での自立援助が必要である。	事業自体が本格始動していないので、まず、グレーゾーンにどれくらいの障害者が存在しているのか示してほしい。障害者の為の恋愛対策に共に踏み込んでほしい。理解促進を深める為の方策を検討してほしい。
13	認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ(浜松市西区)	障害福祉サービス事業所「アルス・ノヴァ」では、毎日30名以上の障害を抱えた方々が通ってきている。「多様で寛容な社会」の実現のため、できるだけ多くの人に、この場を体感してもらいたい、一般の方々に足を運んでもらうことが難しい。	①学生たち自身が障害福祉施設を体験・体感してほしい。 ②その体験をもとに、どうしたら自分の知り合いが障害福祉施設に関心をもつのか考え、実際に身近な人を誘ってきてもらいたい。 ③広く一般の人に関心をもってもらうための方法を共に考え・実行していきたい。
14	空き家再生プロジェクト(静岡市駿河区)	空き家の利活用を促進し、地域社会の活性化に貢献することを課題として、次のような活動をしている。 ①空き家に関する研究活動(発生と利活用方法、意識調査) ②空き家の利活用にむけた啓発活動(イベント・セミナー)、 ③空き家再生活動(マッチングサポート・リノベーション)	積極的にまちづくりへ関わることを目指して、空き家を再生したサテライト研究室を設けて、地域を活性化するためのリサーチ・研究を進めているが、この活動に継続的に関わってもらいたい。

2016年度静岡大学公開講座開催報告

今年度も部局ごと多彩な講座を企画し、県内各地の会場で14講座が開催されました。

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	受講料	部局
中国人による中国講座 —日本人の知らない中国 [全8回]	人文社会科学部准教授・張盛開 人文社会科学部准教授・李蓮花 大学教育センター講師・翟勇 法科大学院准教授・朱曄 非常勤講師・王元武 非常勤講師・盧思 非常勤講師・周佩芳	4/9(土)・18(月)・23(土)、5/13(金)・21(土)、6/11・25、7/9(土) 14:00～16:00 4/18、5/13のみ18:00～20:00	静岡キャンパス	一般市民	80	153	800	(人)
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/10、7/12、9/20、11/8、3/7(火)13:30～15:30	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究センター藤枝 フィールド	一般市民	10	50	10,000	(技)
医療中国語 [全20回]	人文社会科学部准教授・張盛開 非常勤講師・王元武	6/2・9・16・23・30 7/7・14・21・28 8/4、10/6・13・20・27 11/10・17・24、12/1・8・15(木) 19:00～21:00	静岡キャンパス	医療従事者優先	20	88	10,000	(人)
箏を弾こう!【初級】【中級】 [各3回]	教育学部准教授・長谷川 慎	7/31、8/7・21(日) 【初級】9:00～12:00 【中級】13:00～16:00	静岡キャンパス	箏の演奏に興味のある方	25	34	【初級】 無料 【中級】 3,000	(教)

講座名	講師	日時	会場	対象	各日定員	延べ人数	受講料	部局
鼓を打とう! [全2回]	長唄演奏家・望月太左衛 長唄演奏家・望月太左理	8/22(月)・23(火) 10:00～16:00	静岡キャンパス	小・中・高等学校教員及び鼓の演奏に興味のある方	20	24	無料	教
紅茶作りに挑戦しよう	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	7/28(木) 13:00～16:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民	20	20	1,000	技
遺伝子の世界を見てみよう [全2回]	グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫 技術部技術職員・森内良太	8/3(水)10:00～17:00、 8/4(木)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	40	無料	グ
体験「大学の化学実験」 [全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤満	8/20(土)・21(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生・高校生	30	23	無料	グ
静大キャンパス探訪 ～静岡キャンパスの自然と歴史～ [全4回]	ふじのくに地球環境史ミュージアム・岸本年郎 理学部准教授・徳岡 徹 教育学部講師・加藤英明 人文社会科学部教授・篠原和夫	10/8・15・22・29(土) 10:00～12:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、小中高生	20	44	無料	キ
多元的共生社会～さまざまな 人びとと生きる [全6回]	人文社会科学部准教授・山本崇記 人文社会科学部教授・白井千晶 人文社会科学部教授・荻野達史 人文社会科学部教授・幸田るみ子 人文社会科学部教授・江口昌克 人文社会科学部教授・笠井 仁	10/4・11・18・25 11/1・8(火) 18:30～20:00	アイセル21(静岡 市葵生涯学 習センター)	一般市民	50	201	無料	人
情報学部公開講座2016	情報学部教授・吉田 寛 情報学部准教授・荒木由布子 情報学部准教授・桐山伸也	11/7(土)10:30～12:00	浜松キャンパス	興味のある方 ならどなたでも	150	48	無料	情
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル(初級編)	教育学部教授・村越 真 プロアドベンチャーレーサー・宮内佐季子	6/4(土)9:30～16:30	静岡キャンパス 及び屋外	登山・アウトドア活動を行う 一般市民	25	22	3,000	教
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル(中級編)	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉成行	11/3(木・祝) 9:30～16:30	静岡市郊外	過去に初級編を受講した方、又は地形図の基礎知識がある登山経験者で6km程度を無理なく歩ける方	20	21	3,600	教
山の天気:楽しく安全な登山への道しるべ	(株)ヤマテン代表取締役・猪熊隆之 教育学部教授・村越 真	12/17(土) 9:30～16:30	静岡キャンパス	登山・アウトドア活動を行う 一般市民	35	32	2,000	教
トレイルランナーのためのランニングとリスクマネジメント	教育学部教授・村越 真 team TECNICA・山田高志	12/18(日)9:00～16:00	静岡キャンパス 及び屋外	日常的にランニング(ロード・トレイルを問わず)を実施し、トレイルランニングに興味を持つ市民	15	9	3,900	教



紅茶作りに挑戦しよう

【主催欄凡例】

- (人) = 人文社会科学部 (教) = 教育学部 (情) = 情報学部
 (キ) = キャンパスミュージアム (グ) = グリーン科学技術研究所
 (技) = 技術部

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「地球市民・未来創生塾～現代日本に生き、考えるための5つの視点～」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	7/16(土)	超弦理論で解き明かす宇宙誕生の謎 ～現代の宇宙像の先へ～	土屋麻人(静岡大学理学部物理学科准教授)	189
2	8/20(土)	地球環境の歴史を読み解く ～地球と人類のこれから～	山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム准教授)	168
3	9/3(土)	近代世界の地域紛争～その背景と処方箋～	大野旭=楊海英(静岡大学人文社会科学部教授)	187
4	10/1(土)	日本における異文化交流の側面 ～静岡とフランス～	今野喜和人(静岡大学人文社会科学部教授・学部長)	158
5	11/5(土)	静岡という地域～その課題と可能性～	太田隆之(静岡大学地域創造学環准教授)	150

■会場：あざれあ(静岡県男女共同参画センター) 6F大ホール

■参加費：無料

■時間：14:00～16:00

■主催：静岡大学、読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「浜松の過去・現在・未来」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	9/13(火)	井伊直虎と遠江	小和田哲男(静岡大学名誉教授)	95
2	10/11(火)	浜松の現在と未来～平成の大合併とまちづくり～	西原純(静岡大学情報学部教授)	79
3	11/8(火)	浜松から宇宙へ～超小型衛星STARSとは?～	能見公博(静岡大学大学院総合科学技術研究科教授)	63
4	12/13(火)	ものづくりに活かすナノテクノロジー ～ウルトラファインバブルの化学～	間瀬暢之(静岡大学工学部教授)	61
5	1/17(火)	太陽光・排熱を電気へ変換 ～エナジーハーベスト材料の開発～	早川泰弘(静岡大学電子工学研究所教授)	59

■会場：静岡大学浜松キャンパス

■参加費：無料

■時間：18:00～19:30

■主催：静岡大学、
中日新聞東海本社



静岡大学・中日新聞連携講座
第4回開催風景



静岡大学・読売新聞連続市民講座
「地球市民・未来創生塾」チラシ



静岡大学・中日新聞連携講座
「浜松の過去・現在・未来」チラシ

2016年度下半期（10月～3月）の事業報告

主催事業

公開セミナー

「学んで楽しい！大学で学ぼう～」

知的障害のある人にとっても学び続ける機会があることで、社会参加の幅が広がり、人生をより豊かにすることができます。また、日頃の就労生活を支えるためには、余暇活動や生涯学習の充実が必要です。大学で講義を聴く会を開催することで、学びの環境づくり、講義内容と支援の効果的な方法を求め提供することができます。

第2回公開セミナー

- ・日時：2017年10月16日（日）9:15～12:15
- ・プログラム：

[演習]「アイスブレイク～学びのなかま～」

講師：大畑智里（静岡県立静岡北特別支援学校教諭）

[講義①]「自分のQOLを可視化しよう！」

講師：杉山卓也（静岡大学教育学部講師）

[講義②]「Image your Korea! 想像してください あなたのだけの韓国」

講師：内藤珠実（ジャパソコリアネットワーク）

- ・受講者：知的障害のある方（18歳以上70歳まで）

他に、学びのパートナーとして、大学生も参加

- ・会場：静岡大学学生会館3階ホール

- ・企画：静岡県障害者就労研究会

公開講演会

「障害者の就労継続を考える～障害者雇用に関する国の動向を踏まえた現状と今後の方向性～」

知的障害者にとっての働く意味や価値、就労に向けた学びについて把握することは大変重要です。

今回は、障害者の労働政策に長年関わってきた講師から、国の動向を捉え就労や就労継続に関して本人たちに求められるコミュニケーション力や必要な支援について学びました。

- ・日時：2016年10月16日（日）13:30～15:30
- ・講師：松為信雄（文京学院大学教授）
- ・参加費：無料
- ・会場：静岡大学学生会館3Fホール
- ・企画：静岡県障害者就労研究会

地域課題解決支援プロジェクト公開シンポジウム 地域課題から地域創造へ

～域学連携による学びの環づくりのために～

これまでのプロジェクトの地域・大学双方の関係者を集めた公開シンポジウムを開き、県内の取り組み事例を報告しながら、地域と大学が連携・協働することによってどのような学びの環（わ）ができつつあるか、その課題と可能性を探りました。

当日は、松崎町が新たに開設した交流拠点「ふれあいとふや」と遠隔テレビシステムで会場を結び、現地住民とも意見交換が行われました。

- ・日時：2016年12月27日（火）12:45～16:00

- ・会場：静岡キャンパス共通教育A棟301

- ・プログラム：

[報告1]

「三保松原における地域づくりの課題と可能性」

三保の松原フューチャーセンター 前島國治

NPO法人三保の松原羽衣村 宮城島史人

[報告2]「学生参画による地域連携の取り組み」

静岡大学学生支援センター 宇賀田栄次

[報告3]「松崎町における地域づくりの課題と可能性」

松崎町企画観光課 深澤準弥

[報告4]「東伊豆町における学生参加のまちづくり

ー学生リノベーション事例「ダイロクキッチン」ー」

東伊豆町地域おこし協力隊 荒武優希

[パネル・ディスカッション]

パネリスト：報告者、課題提案者

コメンテーター：平岡義和（地域創造学環長）

コーディネーター：阿部耕也（イノベーション社会連携推進機構）



地域連携教育セミナー

「学生および地域住民を対象とした教育プログラムの構築」

地域社会の課題を題材とした教育研究活動を拡充し、学生および地域住民を対象とした持続可能な教育プログラムを築くために必要なことを学ぶセミナーを開催しました。今回は、信州大学で行われている、地域課題を題材とした様々な教育プログラムが紹介され、それぞれの立場での連携のコーディネートについて学びました。

・日時：2017年2月22日（水）13:30～15:15

・会場：静岡キャンパス共通教育A棟301

・プログラム：

[講演]「地域での学びに向けた連携コーディネートを考える」

講師：林 靖人（信州大学学術研究院総合人間科学系准教授）

[フロアディスカッション]



共催事業

生涯学習指導者研修事業

「若者の学びを支える公民館」

公民館活動など生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進め、指導者の資質の向上をはかることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施しています。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また人材育成・地域づくりの拠点として、これまで以上に地域住民・機関・団体との連携・協働が求められています。地域のもつ資源、人材、ネットワークを活かしながら、子ども・若者など若い世代の学びを支え、世代間交流を活性化し、地域づくりにつなげる方策を探りました。

・日時：2016年11月24日（木）10:20～16:00

・会場：静岡市興津生涯学習交流館

・プログラム：

[基調報告1]「『若い世代の学びを支える』社会に繋がる学びをめざして」

講師：遠藤 健（富士市立高等学校教育推進指導主事）

[基調報告2]「富士市市民部まちづくり課の取り組み」

講師：鈴木 剛（富士市市民部まちづくり課）

[事例報告]「地域づくりによる子どもたちの健全育成」

報告者：浜松市可美協働センター所長 中澤 圭介

[大学による事例報告①]

「社会教育活動における子どもの自立支援をめざして

一掛川市の放課後子ども教室「はぐくらぶ」の事例から」

報告者：澤瀬 崇（静岡大学教職大学院2年）

[大学による事例報告②]

「社会教育・生涯学習支援にかかわる大学生の取組」

報告者：岩崎菜摘、宇佐美果穂、飯田晃輔（常葉大学教育学部4年）

グループワークと成果発表



グループワークと成果発表

日本経済新聞連載企画

「静岡大発 私の提言」

2015年から毎月1回、日本経済新聞静岡版で連載が始まり、2016年7月から下記の3名の教員が執筆を担当しました。

①「真のグローバル人材育成、国際交流で信頼若い芽から」
青木徹（情報学部教授）

専門：放射線情報学、電子デバイス工学

②「企業は真の社会貢献めざせ、福祉や次世代育成が重要」
白井千晶（人文社会科学部教授）

専門：出産、育児などの家族社会学

- ③「よそ者が地方再生のカギ、民話、かけがえのない資源」
阿部耕也（イノベーション社会連携推進機構教授）
専門：生涯学習、教育社会学

市民向けキャンパスツアー

平成28年11月15日（火）、榛原地区1市2町の社会教育委員25名が来学されました。一行は、当部門阿部教授より静岡大学と地域連携について講義を受けた後、キャンパスミュージアムおよび大学資料室を見学しました。日頃、訪れることの少ないキャンパス内をまわり、学生気分でもとても新鮮であったとの感想が寄せられました。



地域づくり活動主事研修

平成29年1月31日（火）、御殿場市地域づくり活動主事の皆さんが研修のため来学されました。

はじめに児童生徒や学生が関わった地域づくりの事例について講義を受けた後、静大フューチャーセンターを立ち上げ、県内各地で開催している天野浩史氏指導のもと、「御殿場市の魅力は〇〇だ!」というテーマでフューチャーセッションを体験しました。

日ごろ地域で活動している方にとっては当たり前の環境も、地域の貴重な資源だったと気づき、また参加者の自由な発言を尊重し未来志向で考えるという経験は、今後の地域活動を推進する上で参考になったとの感想をいただきました。



地域コミュニティ懇談会

近年、地域の方々の声を大学運営に反映していくことの意義が高まっており、本学でも2011年度から地域の方々の声を聴く機会を設けています。近隣自治会の役員の方々と学長をはじめとする大学関係者との懇談会を開催しました。

自治会の方々からは、地域行事への学生の参加や学生の生活態度等へのご意見・ご指摘をいただき、有意義な会となりました。自治会の方々からいただいた貴重なご意見を大学運営に活かしていきたいと思っております。

【開催日】 静岡地区：11月29日（火）

浜松地区：12月13日（火）

【場 所】 静岡大学静岡キャンパス、浜松キャンパス

【参加者】 本学関係者および各キャンパス近隣自治会会長等

市民開放授業

静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民に開放しています。単位の認定はありませんが、入試なし、簡単な手続きで受講できます。

2016年度は延べ281名の受講者が若い世代の学生と交流を持ちながら学びました。

開講科目数			受講者数		
前学期	後学期	合計	前学期	後学期	合計
214	199	413	161	120	281

地域連携メールマガジン「大地通信」配信中

静岡大学が開催する公開講座や市民開放授業、講演会などの情報を市民の皆様にお知らせしています。

メールマガジン配信の登録・解除およびバックナンバーの確認は下記のウェブサイトからお願いします。

URL http://www.lc.shizuoka.ac.jp/mail_magazine.php

地域と大学 第34号

発行日——2017年3月31日

発行——静岡大学イノベーション社会連携推進機構
(地域連携生涯学習部門)

編集——牧野 宏美

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
(事務局別館2階)

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

(事務局) 学術情報部研究協力課 ☎ 054-238-4056